

## 第1学年14組 特別な教科道徳 学習指導案

- 1 主 題 名 頑張る心  
 2 内容項目 A希望と勇気、努力と強い意志  
 関連項目 「最後まで粘り強く」19 こぐまの らっぱ  
 3 資料名 『うかんだ うかんだ』  
 4 本時のねらい

指導者 川尻 年輝  
 日 時 7月4日(水) 5限  
 場 所 1年14組教室

「ぼく」が「できるようになりたい」と思い努力した結果、できるようになったときの気持ちを、似顔絵カードで一人一人の考えをはっきりとさせることやペアトークなどの話し合い活動を行うことや学習カードにまとめることを通して、自分の目標に向かって一生けん命努力しようとする道徳的心情を育てる。

### 5 本時の展開

段階時間	学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 【体験】 5	1 先生の話聞く  2 できるようになりたいことを考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・へえ～。</li> <li>・先生にもうまくなりたいことがあるんだ。</li> <li>・ぼくもかっこよく滑りたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキー写真を見せて、もっともっとうまくなりたい、かっこ良く滑りたいと思っている人の思いを語る。 (写真)</li> <li>・隣の席の子とペアトークで、自分のできるようになりたいことを語らせる。</li> <li>・代表で一人、うまくなりたいこと(夢)を語らせたい。</li> </ul>
	みなさんが、うまくなりたいなと思ったことや思っていることはありますか？【JSLAU-A-5 経験を確認する②】		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄棒ができるようになりたい。</li> <li>・サッカーがうまくなりたい。</li> <li>・勉強ができるようになりたい。</li> </ul>	
展開 【探求】 10	3 うまくできなかったときに、どのような行動をしてきたのか考える		<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまくできなかったことを思い出させ、その時にどう行動したのか振り返り、立場をはっきりとさせる。似顔絵カードを使って、黒板に貼る。</li> <li>・うまくできなかったことがイメージできない場合には、体育の時間に取り組んだ鉄棒を思い出させたり、苦手な食べ物について考えさせたりするなど、具体的に考えられるようヒントを出す。</li> <li>・①②③のグループ毎に分かれて、その理由を話し合わせる。</li> <li>・それぞれのグループの友達の考えを聞きながら、共感したい。</li> </ul>
	うまくできなかったときに、あなたはどのようにこうどうしてきましたか。それはなぜですか。 【JSLAU-L-5 意思決定する②「選択をし、その理由を話す」】 ①できるまでがんばった ②すこしだけががんばった ③あきらめた		
		① <ul style="list-style-type: none"> <li>・できないと悔しいから。</li> <li>・できるようになるとお母さんがほめてくれるから。</li> <li>・欲しい物を買ってもらえるから。</li> </ul> ② <ul style="list-style-type: none"> <li>・全然頑張らないのも良くないから。</li> <li>・少しだけなら頑張れるから。</li> </ul> ③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張るのが大変だから</li> <li>・無理だと思ってしまうから。</li> </ul>	
10	4 本文を読み、洗面器やおふろで練習しているときの「ぼく」の気持ちを話し合う		<ul style="list-style-type: none"> <li>・20秒息を止める体験を行う。(水に顔を突っ込んでいる時の苦しさや大変さを味わう)</li> <li>→ペアトークで、洗面器やおふろで練習している場面を想像して語らせる。</li> <li>・似たような苦しい実体験が</li> </ul>
	洗面器に顔をつけているときに、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか？【JSLAU-H-8 いろいろな視点で考える③「他の人の立場で考える」】		

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦しい！</li> <li>・ つらいなあ。</li> <li>・ いやだなあ。</li> <li>・ やめたいなあ。</li> </ul>	<p>あれば、それを思い出しながら語らせた。</p> <p>(場面絵)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 洗面器を用意し、イメージを膨らませる。</li> </ul>
5	4 プールで体が浮かんだときの、「ぼく」の気持ちを考える	<p>プールで体が浮かんだとき、「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。【JSLAUH-8 いろいろな視点で考える③「他の人の立場で考える」】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦ししい練習をしてきたことを再度押さえる。</li> <li>・ ペアトークで、どんな気持ちだったのか話し合わせる。</li> <li>・ 苦ししい練習の末にできた達成感を感じさせたい。</li> <li>・ 本人だけでなく周りの人もできたことに大きな喜びを持つことにも触れさせたい。(母親の喜びなど)</li> </ul>
終末【発信】10	5 うまくできないときに、どのように行動をしていきたいのか考える	<p>★うまくできないときに、あなたはどのようにこうどうしていききたいですか。それはなぜですか。</p> <p>【JSLAUH-1 条件的に考える①「条件を付して考える-1」】</p> <p>①できるまでがんばる ②すこしだけががんばる ③あきらめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 黒板に貼ってある似顔絵カードを使い、これからどうしていきたいのか自分の行動を決定していく。</li> <li>・ 考え方に変容が見られた児童に対して、なぜ考えが変わったのか皆の前で発表させる。</li> <li>・ 考えに賛成の場合には拍手で意思表示するよう指導する。</li> <li>・ ワークシートで自分の考えをまとめる。</li> <li>・ およげるようにがんばった「ぼく」に、手紙を書くことを通して、粘り強く挑戦していくことの大切さ、一人一人の子供たちのメタ認知につなげたい。</li> </ul>
		<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ できるようになると嬉しいから、できるまで頑張りたい。</li> <li>・ 無理だと思っても、練習を続けられ出来るようになっていくかもしれないから頑張りたい。</li> <li>・ みんなにほめられたいから頑張りたい。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全然できないと良くないと思うから少しはできるようにがんばりたい。</li> <li>・ できなくても少しは頑張るようになろう。</li> <li>・ 無理と思わないで、やればできるにしていきたい。</li> </ul>	
終末5	7 教師の説話を聞く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先生も頑張っていることがあるんだ。私も頑張ろう！</li> <li>・ 頑張ったら、上手くなれるのだ。何事も諦めないで挑戦していこう！</li> <li>・ やればできるんだ！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入で話したスキーのことにつなげ、担任も粘り強く頑張っていくことを伝える。</li> <li>・ スキー動画を見せて、もっともっとうまくなりたい、かっこ良く滑りたいと思っている担任の思いを語る。</li> <li>・ 動画の人物は担任であることを告げる。(動画)</li> </ul>

## 6 評価 (実証の観点)

- ① 「ぼく」が「できるようになりたい」と思い努力した結果、できるようになったときの気持ちを、似顔絵カードで一人一人の考えをはっきりとさせ考えていく(行動選択能力の質を高める)ことが、自分の目標に向かって一生けん命努力しようとする道徳的心情を育てることにつながったか。
- ② 「ぼく」が「できるようになりたい」と思い努力した結果、できるようになったときの気持ちを、ペアトークなどの話し合い活動を行うことを通して考えることが、自分の目標に向かって一生けん命努力しようとする道徳的心情を育てることにつながったか。

**\* 教材研究 \***

**【資料 JSLカリキュラム】**

JSLカリキュラムは、日本語の力が不十分なため、日常の学習活動に支障が生じている子どもたちに対して、学習活動に参加するための力の育成を図るためのカリキュラムである。そのねらいを簡潔に表現するならば、日本語の習得を通して学校での学習活動に参加するための力の育成を目指したものである。これを実現するために、子どもたちの体験を日本語で表現したり、学習の過程やその結果を日本語でまとめたり、さらには学習したことを他の子どもたちに向けて日本語で表現したりといったように、日本語による「学ぶ力」の獲得を目指している。

**【資料 AU】**

AU は「Activity Unit」(活動の単位) の略で、子どもに必要な「日本語で学ぶ力」を小さな単位に分け、教室での様々な「学び」を促す場面において多用される教師の発問・指示語を体系化したものである。

\* 文部科学省 HP 『学校教育における JSL カリキュラムの開発について』(最終報告) 小学校編  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm)

**【本時に関わる AU 一覧 (全体)】**

共通のAU	本授業での表現例
<p>(体験) A-5 AU: 経験を確認する②  「経験の有無を確認する-2」  T: A したことはありませんか。  S: はい、しました。/ B ならしたけど、A はしませんでした。</p>	<p>T: みなさんが、うまくなりたいたいなど思ったことや思っていることはありませんか。  S: はい、あります。～です。/ありません。</p>
<p>(探究) H-8 AU: いろいろな視点で考える③  「他の人の立場で考える」  T: ～さんなら、どう思うでしょうか。  S: ～さんなら、～と思うと思います。</p>	<p>T: 洗面器に顔をつけているときに、「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。  S: ～だったと思います。</p> <p>-----</p> <p>T: プールで体が浮かんだとき、「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。  S: ～だったと思います。</p> <p>-----</p>
<p>(探究) H-1 AU: L-5 意思決定する②  「選択をし、その理由を話す」  T: どちらを選びましたか。なぜそちらを選んだのですか。  S: ～にしました。～だからです。</p>	<p>T: うまくできなかったときに、あなたはどのようにこうどうしてきましたか。それはなぜですか。  S: がんばって、練習しました。なぜかという、できないのが悔しいからです。/あきらめてしまいました。なぜかという、すごく難しいと思ったからです。</p>
<p>(発信) K-5 AU: わかったことを表現する  ①「わかったことを表現する」  T:  S: ～ました。</p>	<p>T: うまくできないときに、あなたはどのようにこうどうしていきたいですか。  S: これからもできるようにがんばりたいです。/できなくても少しはがんばりたいです。</p>

**【資料 本授業における「体験」「探求」「発信」の3つの局面について】**

※ JSLカリキュラムでは、大きく2つのタイプを想定している。一つは、「トピック型JSLカリキュラム」であり、もう一つは「教科志向型JSLカリキュラム」である。

「トピック型JSLカリキュラム」とは、具体物や直接体験という活動を通して、しかも他の子どもとの関わりを通しながら、日本語で学ぶ力を育成することが主目的である。つまり、特定の教科というよりも、各教科に共通の学ぶ力の育成を目指す。ここでは、「体験」「探求」「発信」という3つの局面を組織し、その中で観察、情報の収集、思考、推測、類推、統合、評価といった教科学習の基礎となる活動を組み立て、そしてその成果を日本語で表現できるようにすることがねらいである。

「学校教育における JSL カリキュラムの開発について」(最終報告) 小学校編  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/001/008/001.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008/001.htm)